
平成28年度 事業報告書・概要版

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)



地方独立行政法人 神戸市民病院機構

1	神戸市民病院機構の概要	1
2	病院ごとの取り組み	
	神戸市立医療センター中央市民病院	6
	神戸市立医療センター西市民病院	14
3	優秀な職員の確保と人材育成	22
4	経営状況について	24
5	PFI事業・市関連病院との連携・	
	神戸医療産業都市における役割	28

神戸市民病院機構

◆神戸市民病院機構の役割

神戸市民病院機構は、中央市民病院・西市民病院の2病院を運営しており、平成21年4月に、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的として設立されました。



◆概要

項目	
法人名	地方独立行政法人神戸市民病院機構
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目1番地の1 1 市民病院前ビル3階
設立年月日	平成21年4月1日
役員数	12名
職員数	2,115名（平成29年3月31日現在）

◆役員名簿

（平成29年3月31日現在）

役職	氏名	備考
理事長	常勤 菊池 晴彦	
副理事長	常勤 橋本 信夫	
理事	常勤 坂田 隆造	中央市民病院長
理事	常勤 山本 満雄	西市民病院長
理事	常勤 山平 晃嗣	法人本部長
理事	非常勤 石原 享介	中期計画推進担当兼西市民病院担当
理事	非常勤 山岡 義生	京都大学名誉教授
理事	非常勤 新 尚一	神栄株式会社相談役 神戸商工会議所副会頭
理事	非常勤 鈴木 志津枝	神戸市看護大学長
理事	非常勤 中村 肇	公益財団法人阪神北広域救急医療財団理事長
監事	非常勤 藤原 正廣	弁護士(京町法律事務所)
監事	非常勤 岡村 修	公認会計士・税理士(岡村修公認会計士税理士事務所)

神戸市立医療センター中央市民病院

◆病院の特徴と役割

救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、幅広く患者を受入れました。また、地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組むとともに、高度医療機器の導入等を必要に応じで行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行いました。



◆病院概要

項目	
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目1番地の1
許可病床数	708床（一般：690床、感染：10床、精神科身体合併：8床）
診療科	循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科、新生児科、皮膚科、外科・移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、臨床病理科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急部、総合内科
主な役割及び機能	<ul style="list-style-type: none">・救命救急センター指定病院・第1・2種感染症指定医療機関・地域がん診療連携拠点病院・臨床研修指定病院・卒後臨床研修評価機構認定施設・総合周産期母子医療センター・災害拠点病院・地域医療支援病院・病院機能評価認定施設

◆病院の基本理念と基本方針

【基本理念】

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供します。

【基本方針】

- ①患者の生命の尊厳と人権を尊重します。
- ②十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供します。
- ③基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組みます。
- ④24時間体制での救急医療を実践します。
- ⑤医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図ります。
- ⑥地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進めます。

1 神戸市民病院機構の概要

◇◆数値目標の達成状況◇◆

□ : 年度目標達成

項目	H28年度実績	H28年度目標	H27年度実績
クリニカルパス適用率	62.6%	63.0%以上	63.8% (目標:60.0%以上)
紹介率	62.5%	58.0%以上	57.4% (目標:55.0%以上)
逆紹介率	126.7%	100.0%以上	111.8% (目標:90.0%以上)
単年度資金収支	▲900百万円	▲848百万円以上	▲1,435百万円 (目標:1,434百万円以上)
経常収支比率	99.7%	100.0%以上	99.7% (目標:100.1%以上)
病床利用率	94.1%	92.7%以上	92.5% (目標:93.8%以上)
給与費比率	46.2%	47.7%以下	46.3% (目標:47.0%以下)
材料費比率	31.1%	28.3%以下	30.5% (目標:28.7%以下)
経費比率	17.6%	18.4%以下	17.6% (目標:18.5%以下)

◇◆主な指標の推移◇◆

項目	H28年度実績	H27年度実績	前年度差
入院単価	95,833円	93,246円	2,587円
外来単価	19,172円	17,717円	1,455円
延入院患者数	236,932人	233,611人	3,321人
延外来患者数	483,315人	478,070人	5,245人
入院患者数/日	649人	638人	11人
外来患者数/日	1,989人	1,967人	22人
病床利用率(在院ベース)	94.1%(85.0%)	92.5%(84.0%)	1.6%(1.0%)
新入院患者数	22,701人	21,559人	1,142人
初診外来患者数	86,392人	86,688人	▲296人
平均在院日数	10.4日	10.8日	▲0.4日
手術件数	13,177件	12,544件	633件
医業収支比率	97.7%	96.5%	1.2%

神戸市立医療センター西市民病院

◆病院の特徴と役割

市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行いました。

また、地域医療支援病院として、近隣の関連機関と緊密な連携を図り、医療と福祉・介護の架橋となるべく、在宅医療を強化しました。



◆病院概要

項目	
所在地	神戸市長田区一番町2丁目4番地
許可病床数	358床
診療科	消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、臨床病理科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科
主な役割及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ・2次救急対応 ・地域医療支援病院 ・高齢者医療の充実 ・臨床研修指定病院 ・卒後臨床研修評価機構認定施設（平成28年8月認定） ・神戸市災害対応病院 ・がん診療連携拠点病院に準じる病院 ・在宅医療の充実 ・病院機能評価認定施設

◆病院の基本理念と基本方針

【基本理念】

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

【基本方針】

- ①患者の人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
- ②安全管理を徹底し、患者に満足される医療を提供します。
- ③救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
- ④市民病院群の連携を図り、高度・専門医療を充実させ、急性期病院を維持します。
- ⑤地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
- ⑥医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
- ⑦職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

1 神戸市民病院機構の概要

◇◆数値目標の達成状況◇◆

 : 年度目標達成

項目	H28年度実績	H28年度目標	H27年度実績
クリニカルパス適用率	47.7%	50.0%以上	45.0% (目標:50.0%以上)
紹介率	53.0%	50.0%以上	46.7% (目標:50.0%以上)
逆紹介率	101.1%	70.0%以上	89.2% (目標:70.0%以上)
単年度資金収支	▲320百万円	31百万円以上	▲383百万円 (目標:▲187百万円以上)
経常収支比率	96.5%	100.0%以上	98.1% (目標:100.1%以上)
病床利用率	85.6%	89.2%以上	83.5% (目標:90.0%以上)
給与費比率	58.8%	56.3%以下	57.4% (目標:56.0%以下)
材料費比率	25.6%	23.3%以下	25.0% (目標:23.6%以下)
経費比率	16.2%	16.1%以下	16.6% (目標:16.9%以下)

◇◆主な指標の推移◇◆

項目	H28年度実績	H27年度実績	前年度差
入院単価	53,698円	53,385円	313円
外来単価	14,732円	13,628円	1,104円
延入院患者数	111,797人	109,352人	2,445人
延外来患者数	209,636人	217,182人	▲7,546人
入院患者数/日	306人	299人	7人
外来患者数/日	863人	894人	▲31人
病床利用率(在院ベース)	85.6%(78.7%)	83.5%(76.7%)	2.1%(2.0%)
新入院患者数	8,992人	8,934人	58人
初診外来患者数	21,524人	23,081人	▲1,557人
平均在院日数	12.4日	12.3日	0.1日
手術件数	3,032件	2,899件	133件
医業収支比率	91.0%	92.1%	▲1.1%

神戸市立医療センター中央市民病院

1. 市民病院としての役割の発揮

(1) 救急医療

- ①救命救急センターとして、24時間365日体制の救急医療の提供を継続し、救急外来患者数、救急入院患者数及び救急車受入患者数の全てにおいて人数が増加しました（グラフ1）。また、救命率向上の一層の強化を図るため、ドクターカーの出動や、ヘリコプターによる救急搬送患者の受入れも継続しました。
- ②受入れられなかった救急車搬送患者については、院内で理由等について検証することで、断らない救急に努め、引き続き高い応需率を維持しました。
- ③平成28年5月より、救命救急センター内に「**第2救急病棟**」を開設し、救急患者の受入れ体制の充実及び院内全体の円滑な病床運営を確保する体制を整備しました。（写真1）
- ④厚生労働省より発表された「全国救命救急センター評価※1）において、全国279か所の救命救急センターのうち、**3年連続で第1位**に選ばれました。

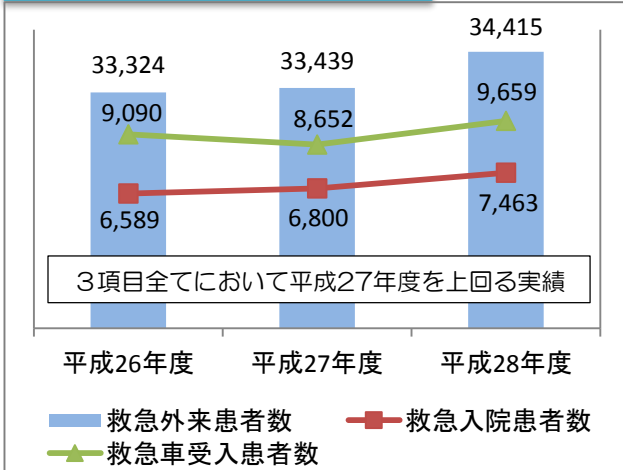
(2) 小児・周産期医療

- ①総合周産期母子医療センター※2）として、関係診療科との連携強化や最新の医療技術を用いて救命に努める等、ハイリスク出産への対応を行いました。（グラフ2）
- ②安定した小児・周産期医療の提供を継続するため、週1回の症例検討を行い、医療技術の向上に努めました。また、夜間や休日は必ず小児科医が当直待機し、救急患者の対応処置にあたる体制を継続しました。（グラフ3）
- ③平成28年5月にポートアイランドに移転した県立こども病院とは、対応困難な分野を相互に補完することとし、転院転送における連携を進めました。

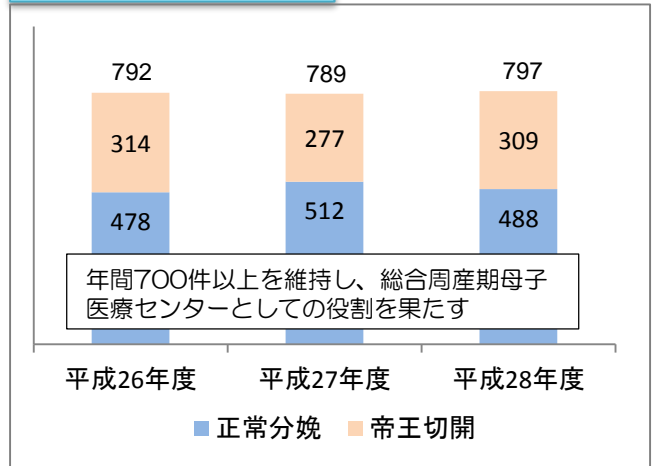
(3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療

- ①平成28年4月に発生した**熊本地震**において、**災害時派遣医療チーム (DMAT) ※3）**を派遣し、被災病院から患者の域外搬送、避難所のサーベイランス（疾病対策に必要なデータの収集・分析等）及び巡回診療等を行い、被災地の支援にあたりました。（写真2）
- ②災害拠点病院として、引き続き院内で防災訓練を実施しました。平成28年度の訓練では、災害対策本部に伝達すべき情報の選別を行う対策本部支援室を新たに設置し、情報収集機能や整理機能の強化を図り、災害発生時の初動体制の構築に取り組みました。
- ③感染症医療については、**新興感染症※4）**が発生した場合に、市・県及び地域の医療機関と連携を図れる体制を継続するとともに、院内においては、中東呼吸器症候群（MERS）患者受入れ訓練を実施し、受入れ体制の課題抽出及び改善を図りました。

グラフ1 救急患者数の状況(人)



グラフ2 分娩件数(件)



グラフ3 小児科患者数の状況(人)

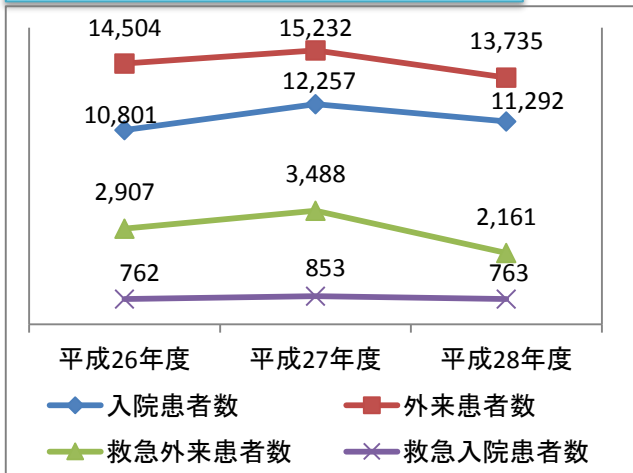


写真1 第2救急病棟



第2救急病棟の開設により、救命救急センターは、50床から54床となりました。

写真2 DMATの活動風景



対策本部のある熊本赤十字病院にて指示を受け、他病院のDMATとも連携しながら、支援を行いました。

◆用語解説◆

※1 全国救命救急センター評価

平成11年度から救命救急センター全体のレベルアップを図ることを目的として実施されており、診療体制や患者受入実績等に関する報告に基づき、点数化された評価。

※2 総合周産期母子医療センター

重い妊娠中毒症や切迫早産、脳出血等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応するため、都道府県が指定する施設。

※3 災害時派遣医療チーム(DMAT) (Disaster Medical Assistance Team)

災害急性期(災害発生後48時間以内)における、被災地での医療の確保を図るため、救出・救助部門と合同して可及的速やかに活動するためのトレーニングを受けた医療チーム。

※4 新興感染症

かつては知られていなかった、新しく認識された感染症で、国際的に公衆衛生上の問題となる感染症。エイズ、エボラ出血熱等がある。

神戸市立医療センター中央市民病院

2. 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

- ①手術支援ロボット「ダヴィンチ」、TAVI（経カテーテル大動脈弁治療）による手術、腹腔鏡及び胸腔鏡手術等、高度かつ患者に負担の少ない治療や手術に引き続き積極的に取り組み、手術（内視鏡による手術を含む）件数が増加しました（グラフ1）。「ダヴィンチ」を活用した手術では、前立腺がんに加えて、腎臓がん及び膀胱がん手術にも対応しました。
- ②高度医療機器による検査についても引き続き積極的に取り組み、CT検査及びPET検査の件数が増加しました。（グラフ2）

(2) 5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患）への対応

- ①一般医療と精神科医療を必要とする身体合併症患者の増加に伴い、平成28年8月より、精神科専門医と救急医等が協力して診療にあたる精神科身体合併症病棟（MPU）（※1）を8床開設しました。平成28年5月に供用を開始した第2救急病棟と併せ、救命救急センターを充実し、より多くの救急患者の受入れが可能となりました。
- ②「地域がん診療連携拠点病院」（※2）として、オープンカンファレンスや研修会を引き続き開催し、地域におけるがん医療の充実に努めました。また、治療については、各診療科、放射線治療部門、外来化学療法センター等の関係部門が連携し、より専門的な治療やケアを提供しました。

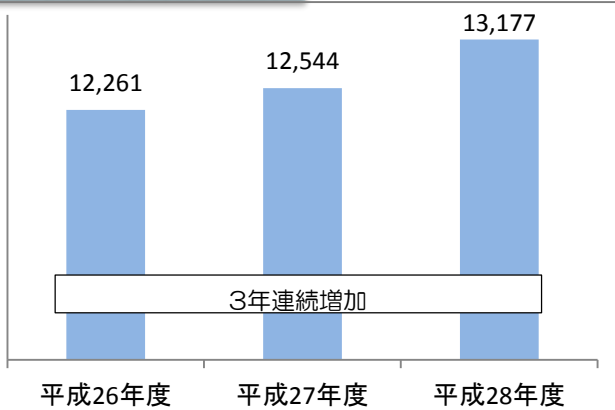
(3) チーム医療（※）の実践及び専門性の発揮

- ①院内の多職種で構成されるチームにおいて、定期的にミーティングや院内の巡回を実施し、コミュニケーションを図ったほか、各職種がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療の提供を行いました（表2）。また、心臓血管外科と内科で連携し治療を行う等、患者の全身状態に応じた医療を提供するため、診療科間においても横断的に連携する診療体制を継続しました。

(4) 臨床研究及び治験（※3）の推進

- ①治験・臨床試験管理センターにおいて、引き続き積極的に臨床研究及び治験の推進に取り組みました。また、臨床研究中核病院（※4）の施設認定に向け、準備委員会を開催するとともに、先端医療センター病院との統合後に継承する治験等について検討を行いました。
- ②中央市民病院、大阪大学、京都大学iPS細胞研究所及び理化学研究所の4者による共同研究となる他人のiPS細胞を用いた網膜色素上皮細胞移植の臨床研究を行う体制を発足し、中央市民病院において、平成29年3月にiPS細胞による第1例目の移植手術を実施しました。（写真1）

グラフ1 手術件数(件)



【内視鏡手術件数(件)】

H26	H27	H28
2,326	2,812	3,029

表2 院内の主なチーム

- NST (栄養サポートチーム)
- 摂食嚥下サポートチーム
- 褥瘡対策チーム
- 口腔ケアチーム
- せん妄チーム
- 緩和ケアチーム
- 呼吸管理サポートチーム
- フットケアチーム
- 精神科リエゾンチーム
- HIV/AIDSサポートチーム
- ICT (感染管理チーム)

グラフ2 検査件数(件)

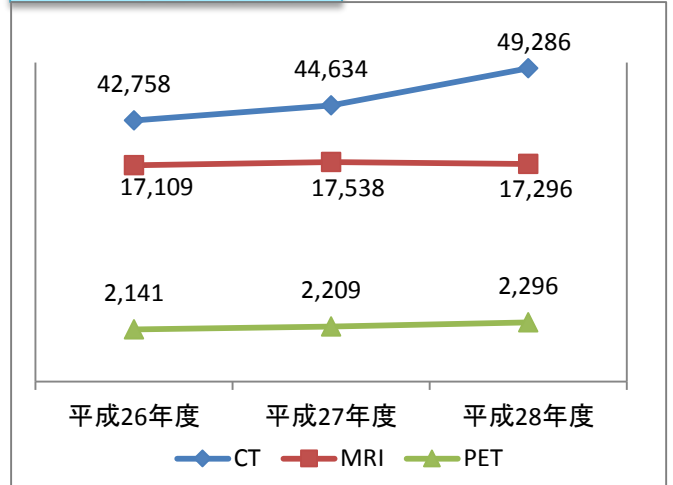
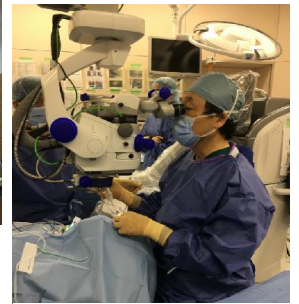


写真1 iPSを用いた臨床研究



臨床研究体制発足時の記者会見
(平成28年6月6日)



移植手術の様子
(平成29年3月28日)



朝日新聞
(平成28年6月7日)

◆用語解説◆ (※チーム医療はP17参照)

※1 精神科身体合併症病棟(MPU) (Medical Psychiatry Unit)

主に薬物中毒患者、自傷による身体損傷を負った患者、自殺企図患者等、精神疾患とともに身体疾病の治療を行う専門病棟。

※2 地域がん診療連携拠点病院

地域間の診療レベルの格差を無くし、質の高いがん医療を提供するために、地域におけるがん診療連携を推進するとともに中核となる病院。

※3 臨床研究、治験

臨床研究とは、治療方法の改善や病気の原因の解明、患者の生活の質の向上などのために行う医学研究。また、治験とは、厚生労働省から医薬品、医療機器、再生医療等製品として承認を受けるために行われる、実際の患者等を対象に有効性や安全性について調べる臨床試験。

※4 臨床研究中核病院

日本発の革新的医薬品、医療機器の開発を推進するため、国際基準の臨床研究等の中心的役割になる病院として厚生労働大臣が承認した病院。

神戸市立医療センター中央市民病院

3. 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(1) 医療の質を管理することの徹底

- ①クリニカルパス(※1)委員会内の「アウトカム・バリエーション(※2)分析チーム」において、クリニカルパスから外れた症例の分析を行う等、引き続き医療の質の標準化に取り組みました(グラフ1)。また、外部講師による講習会やクリニカルパス大会を引き続き開催したほか(写真1)、日本クリニカルパス学会に参加し、活動内容を評価していただき、座長賞を受賞しました。
- ②電子カルテ等の医療情報システムについては、関係部門においてワーキング会議を実施し、平成29年度からのシステムの更新に向けて準備を進めました。
- ③診療情報データを活用するためのシステムを院内で開発し、診療補助や学術研究等、様々な診療現場の要望に対応しました。(表1)

(2) 医療安全対策及び医療関連感染対策の強化

- ①院内で発生したヒヤリ・ハット(※3)、インシデント、アクシデント(※4)に関する検討会を238回実施し、原因の調査や再発防止に向けた取り組みについて検討を行いました。また、平成28年度は、新たなレポート報告基準を定める等、医師からのインシデント報告件数を促したこと等により、報告件数が増加(28年度インシデント報告:5,106件(前年度比308件増))しました。(写真2)
- ②四半期に一度、市民病院群の医療安全担当者が集まる会議を開催し、各病院での医療事故について検討を行うとともに、公表指針に基づき公表を行い、信頼性と透明性の確保に努めました。
- ③感染管理チームによる院内の巡回を継続し、院内の感染状況の把握を行うとともに、伝播防止のために必要な対策を行う等、院内の感染防止に努めました。また、連携医療機関とのカンファレンスや病院間での評価を実施し、意見交換等を通して課題の抽出及び改善に取り組みました。(写真3)
- ④医療安全及び感染対策の必要な情報については、定期的に職員への情報提供を行うとともに、院内研修会を積極的に開催し、職員の知識向上に努めました。

(3) 法令及び行動規範の遵守(コンプライアンス)の徹底

- ①コンプライアンス推進本部会議を開催するとともに、各所属においてコンプライアンス研修を実施し、全職員がコンプライアンスの重要性について認識・実践するための対応を継続しました。また、情報セキュリティについても、内部監査や集合研修を実施するなど、情報セキュリティの強化を図りました。
- ②平成28年度より、法人本部による病院への監査を実施する等、自主監査体制を強化しました。

グラフ1 クリニカルパス件数(件)及び適用率(%)

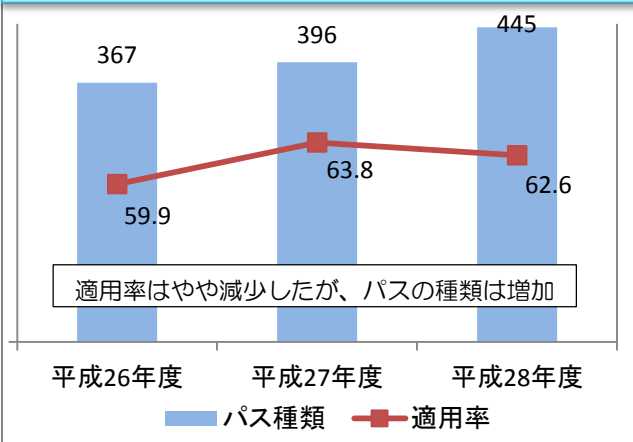


写真1 クリニカルパス大会の様子



18診療科が参加し、皮膚科（带状疱疹パスの分析）が最優秀賞となりました。

表1 院内開発で利用率の高いもの

- ・ DPC(※)入院期間別患者一覧
- ・ DPC(※)分析ツール
- ・ かかりつけ医検索システム
- ・ 認知症加算要件確認ツール
- ・ 退院支援介入進捗管理ツール 等

写真2 医療安全の取り組み



医師のインシデントレポートの提出促進については、毎年開催している医事課職員研修会において、他病院とも意見交換を行うとともに、取り組み状況について年度末に発表を行いました。

写真3 感染対策の取り組み



医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師から構成される感染管理チームにて、週1回のカンファレンスを開催し、院内の感染状況の把握等を行いました。

◆用語解説◆ (※ DPCはP19参照)

※1 クリニカルパス

病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書。

※2 アウトカム・バリエーション

アウトカムとは、クリニカルパスの中で、患者の状態が当初想定していた望ましい状態となること。バリエーションとは、クリニカルパスに示された治療計画から逸脱した状態のこと。

※3 ヒヤリ・ハット

医療事故には至らなくても、場合によっては事故に直結したかもしれないことをいう。間違った医療行為が行われそうになったが未然に気づいて防ぐことができた場合や、行った医療行為に間違いがあったものの患者に被害は及ばなかったケースなど。

※4 インシデント、アクシデント

インシデントとは、医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが、注意を喚起すべき事例。アクシデントとは、医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼした事例。

神戸市立医療センター中央市民病院

4. 市民及び患者とともに築くやさしい病院

(1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

- ①患者満足度調査の実施や意見箱の設置により患者のニーズの把握に努め、必要な改善を行いました(グラフ1)。また、医療通訳制度の利用を継続する等、誰もが利用しやすい病院づくりに取り組みました。
- ②様々な相談や患者の希望に応じたかかりつけ医の案内等を行う**患者サポートセンター**や、入院後の治療をスムーズに行うための**病状説明外来**を開設するとともに、**入院前準備センター**をよりプライベートに配慮した構造となるよう**移設**する等、外来スペースを充実させ、患者サービスの向上に努めました。(写真1)

(2) 市民及び患者へ開かれた病院

- ①患者向け広報誌「しおかぜ通信」の発行や各種教室を引き続き実施し、患者や市民に分かりやすい情報の提供に努めました。また、平成29年1月には**ホームページ**をリニューアルし、掲載内容の充実を図りました。(図1)
- ②がん患者やその家族等を対象としたがんサロン(※1)及び一般市民を対象とした市民フォーラム等を引き続き実施するとともに、平成28年9月より、社会保険労務士による「がん患者の仕事と暮らしの相談会」を開始し、がん患者の支援体制を強化しました。また、平成28年10月には、**がん相談支援センター**をリニューアルし、がん相談室を常時開放するとともに、ウィッグの展示やパンフレットの設置等、充実した情報提供を行いました。(写真2)

5. 地域医療連携の推進

(1) 地域医療機関との更なる連携

- ①各診療科の医師等による地域医療機関への訪問を積極的に行うとともに、オープンカンファレンスや地域連携懇話会を開催し、地域医療機関との連携強化に取り組みました(写真3)。また、FAX予約推進のため、医療機関へ再度案内をするとともに、FAX回線を増設し、受付機能の強化を図りました。これらの取り組みの結果、**紹介率・逆紹介率(※)**がともに上昇しました。(グラフ2)
- ②地域医療連携センターに薬剤師の配置を継続し、病棟薬剤師と連携のうえ、患者の転院時の薬剤情報を転院先に提供し、後方支援体制の充実を図りました。

(2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

- ①在宅介護支援事業所や訪問看護ステーションとの交流セミナー等を通じ、関係機関との連携強化に努めました。また、退院前カンファレンスを積極的に実施し、患者が円滑に退院できるよう患者の状況に応じた支援を行いました。

グラフ1 患者満足度調査結果(%)

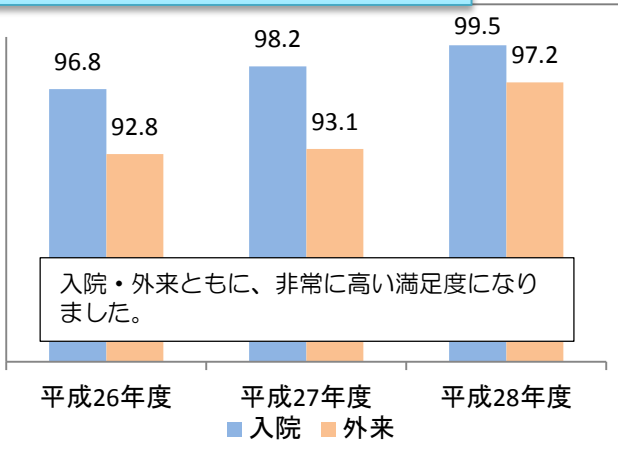


写真1 患者サポートセンター



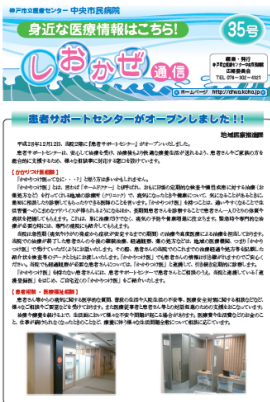
センターの出入り口近くにディスプレイを設置し、連携登録医の情報等を分かりやすく表示し、逆紹介(※)の推進にも取り組みました。

写真2 リニューアルしたがん相談支援センター



以前よりもスペースが広くなり、センター内にプライバシーに配慮した相談室を設け、様々な相談に応じるため、がん相談員が常駐しました。

図1 患者向け広報誌「しおかぜ通信」



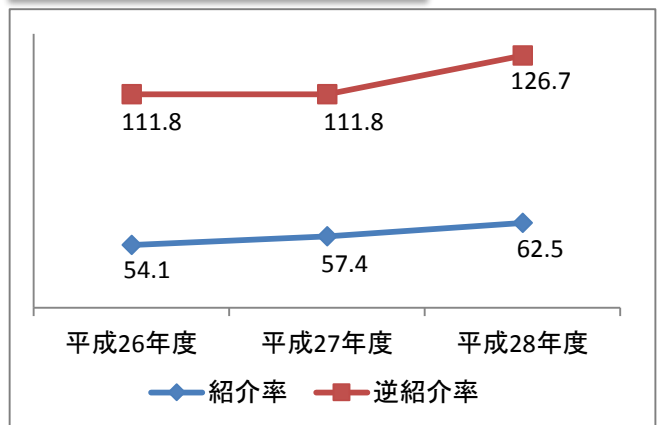
平成28年度は、年4回発行しました。また、年度途中よりフルカラー印刷とし、より見やすく、分かりやすい情報提供に努めました。

写真3 「地域連携懇話会」の様子



中央市民病院からは、平成28年度に運用を開始した、第2救急病棟や精神科身体合併症病棟の状況について、講演を行いました。

グラフ2 紹介率・逆紹介率(%)



◆用語解説◆ (※ 逆紹介はP21参照)

※1 がんサロン

がん患者や家族などが病院等が集まって、相互交流や情報交換など、自由に語り合い、不安の軽減や治療への活力、療養生活の知恵を得たり、がん医療の最新情報などを学習したりする場。

神戸市立医療センター西市民病院

1. 市民病院としての役割の発揮

(1) 救急医療

- ①市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、24時間365日の救急医療の提供を継続しました。平成28年度においては、救急外来患者数及び救急車搬送受入れ件数は減少したものの、**救急入院患者数は増加**しました。（グラフ1・写真1）
- ②時間内救急患者受入れの運用を見直すとともに、中央市民病院救急部の救急専門医による時間内救急対応やICU管理への応援体制を試行的に実施する等、救急患者を円滑に受入れるための体制の構築に取り組みました。
- ③受入れられなかった救急車搬送患者については、毎月の委員会において理由の分析や改善策の検討を行いました。また、救急車の受入れ促進について、院内の会議や通知文書等を通して、医師全員に周知し、「断らない救急」の方針徹底を図りました。

(2) 小児・周産期医療

- ①周産期センターを中心として、正常分娩を中心に周産期システムを活用しながらリスクの高い分娩にも対応しました。また、助産師外来を継続する等、引き続き、安定した周産期医療の提供を行いました。（グラフ2）
- ②小児医療については、休日や夜間等における2次小児救急患者の診療を受入れる二次救急輪番（※1）体制や小児循環器等の専門外来を継続し、引き続き、安定した医療の提供を行いました。また、学校や施設の職員を対象に、食物アレルギーとアナフィラキシーに関する講習会を実施する等、地域の小児医療にも貢献しました。（グラフ3・P21写真2）

(3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療

- ①平成28年4月に発生した**熊本地震**において、**薬剤師及び災害支援看護師を派遣**し、避難所での健康相談・診療介助、服薬指導等を行い、被災地の支援にあたりました。（写真2）
- ②災害時等に備え、必要な医薬品や衛生資材等の備蓄及び災害対応マニュアルの改訂等に引き続き取り組みました。また、平成28年度は、外部講師による研修会を開催するとともに、平日時間内地震対応訓練や多数傷病者来院時対応訓練を実施するなど、職員の意識啓発を図り、「神戸市災害対応病院（※2）」としての取り組みを強化しました。（写真3）
- ③感染症医療については、感染管理認定看護師の専従配置を継続し、感染管理室を中心に、院内マニュアルの改訂等、感染防止に積極的に取り組むとともに、新興感染症（※）拡大の際には、中央市民病院を中心に、県や市とも連携を図れる体制を継続しました。

グラフ1 救急患者数の状況(人)

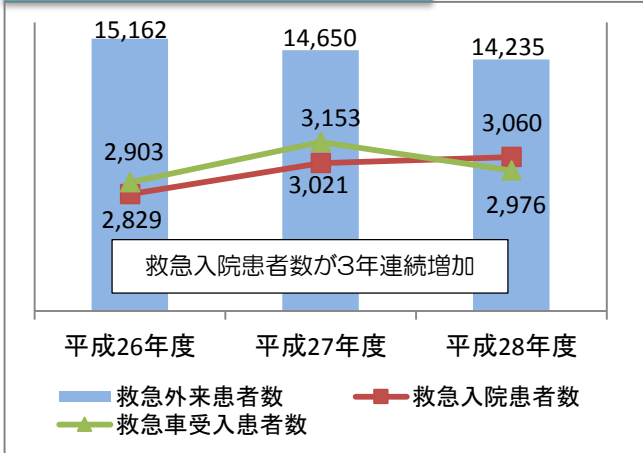
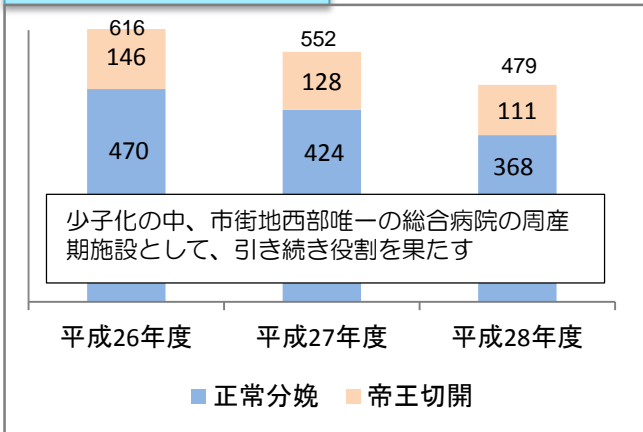


写真1 救急ラウンドの様子



毎朝、関係診療科の医師が集まり、新入院患者や重症患者について、診療内容や治療方針の検討を行いました。

グラフ2 分娩件数(件)



グラフ3 小児科患者数の状況(人)

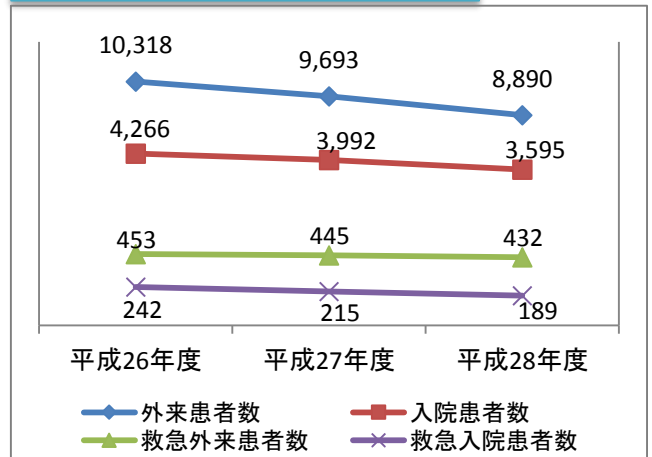


写真2 災害派遣の様子(熊本地震)



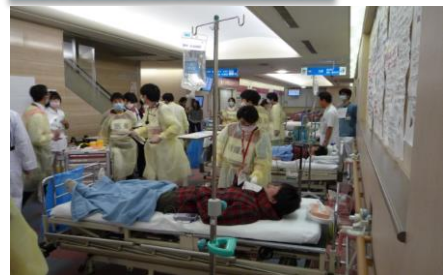
医療ブース

多職種で連携し被災者支援を行うとともに、ボランティア活動者に対する支援や感染予防等の指導も行いました。



薬剤師のミーティング風景

写真3 災害訓練の様子



多数傷病者来院時対応訓練の様子

◆用語解説◆ (※ 新興感染症はP7参照)

※1 小児救急輪番

地域内の病院群が共同連帯して、輪番制方式により、休日や夜間等における2次小児救急患者の診療を受入れる体制。神戸市では初期救急を神戸こども初期急病センターが担うなど医療機関の役割分担に応じた小児救急医療を提供している。

※2 神戸市災害対応病院

県が指定する災害時に被災患者の受入・治療や救護班の派遣等を行う災害拠点病院に準じ、市が設置する救護所への備蓄医薬品や衛生資材等の提供、避難所・福祉避難所への医療提供などの役割を担う病院。

神戸市立医療センター西市民病院

2. 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

- ①腹腔鏡手術、胸腔鏡手術で使用する内視鏡システムを平成27年度末に更新したことに続き、平成28年7月には、手術中の透視や撮影を行う手術室用X線装置を更新する等、より安全で患者に負担の少ない手術が行える環境を整備し、**手術件数（内視鏡による手術を含む）が増加**しました。（グラフ1）
- ②平成28年1月に新設した乳腺外科においては、中央市民病院の形成外科とも連携を行い、乳腺疾患の専門化・高度化に対応した診療を継続しました。また、平成28年度より、多くの専門家の意見を聞くことでさらに最適な治療が行えるよう、中央市民病院や西神戸医療センターの医師と定期的にカンファレンスを実施しました。

(2) 5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患）への対応

- ①平成27年10月に導入した手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用し、前立腺がん手術に対し、より安全で患者に負担の少ない手術を実施しました。また、**外来化学療法件数が増加**するとともに、市関連病院等と連携して放射線治療を引き続き行う等、「地域がん診療連携拠点病院に準じる病院※1）」として、がん治療への充実に取り組みました。（写真1）
- ②糖尿病教室の継続開催及び認知症鑑別診断を引き続き実施したほか、新たに、外来での心臓リハビリテーション実施に向けた検討の開始等、5疾病への対応を継続しました。また、認知症患者の地域での生活を支えるため、地域のケアマネジャー等を対象に、「認知症対応能力研修」を開催しました。さらに、精神疾患患者における身体合併の転院受入れを引き続き行いました。

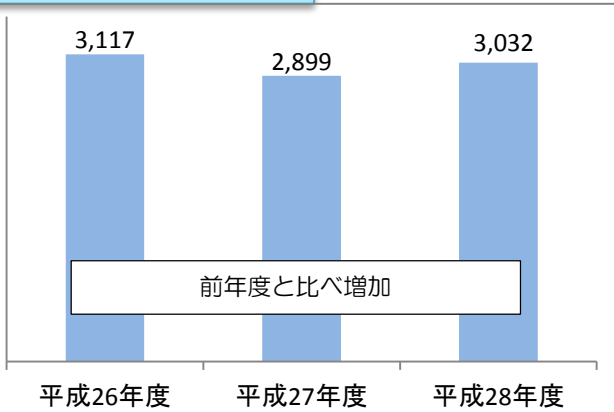
(3) チーム医療※2の実践及び専門性の発揮

- ①院内の多職種で構成されるチームにおいて、定期的にミーティングや勉強会等を実施したほか、各職種がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療の提供を行いました。また、各チームの活動を発表する「チーム医療発表会」を開催し、各チームの活動推進に取り組みました。（表1）
- ②全病棟への薬剤師の常駐を継続し、全ての患者の持参薬の確認及び副作用や重複服用の確認等を実施し、看護師の負担軽減や医療安全の向上に努めました。（写真2）
- ③全日で実施している土曜日のリハビリテーションを含め、各職種の連携のもと、充実したリハビリテーションの提供を継続し、**リハビリ実施件数が大幅に増加**しました。（グラフ2）

(4) 臨床研究及び治験※の推進

- ①治験及び臨床研究を継続して推進し、実施の際は、患者への分かりやすい説明を徹底しました。また、実施内容についてはホームページに掲載するとともに、臨床研究に関する倫理指針等は院内のイントラネットに掲載し、随時閲覧できるようにしました。

グラフ1 手術件数(件)



【内視鏡手術件数(件)】

H26	H27	H28
1,119	1,233	1,377

グラフ2 リハビリテーション実施件数(件)



写真1 外来化学療法センター



外来化学療法センターにおいて、平成28年度は2,373件の化学療法を実施しました。
(平成27年度実績 2,155件)

表1 院内の主なチーム

- NST (栄養サポートチーム)
- 禁煙チーム
- 褥瘡対策チーム
- 改善活動推進チーム
- 緩和ケアチーム
- 糖尿病チーム
- CPR (心肺蘇生法) チーム
- 呼吸ケアチーム
- ICT (感染管理チーム)
- リエゾンチーム
- 災害対策チーム

写真2 病棟薬剤師



入院患者の最適な薬物治療のために、薬学的視点から治療を支援できるよう活動しました。

◆用語解説◆ (※臨床研究、治験はP9参照)

※1 地域がん診療連携拠点病院に準じる病院

地域がん診療連携拠点病院については、P9を参照。

西市民病院は、平成24年4月に県から地域がん診療連携拠点病院に準ずる病院として指定された。

※2 チーム医療

医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を活かし、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること。

神戸市立医療センター西市民病院

3. 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(1) 医療の質を管理することの徹底

- ①クリニカルパス(※)委員会を継続開催し、パスの適用が可能と思われる症例について各診療科に提示し新規パスの作成を提案する等、適用率向上に向けた取り組みを行いました。(グラフ1)
- ②平成29年3月より、電子カルテ上でDPC(※1)入院期間を把握できるシステムに改善し、入院患者の在院日数を意識した病床運営を徹底するための体制を整備しました。
- ③平成28年6月、医師の臨床研修制度に対する評価事業であるNPO法人卒後臨床研修評価機構による評価(※2)を受審し、定められた認定基準を達成したとして高い評価を受け、2年間の施設認定を受けました。(図1)

(2) 医療安全対策及び医療関連感染対策の強化

- ①院内で発生したインシデントやアクシデント(※)について話し合う医療安全管理室会議を週1回開催し、原因の調査や再発防止に向けた取り組みについて検討を行いました。また、平成28年度は、医師からのインシデント報告件数を増やすため、インシデント報告の必要性について周知徹底し、報告件数が増加(28年度インシデント報告：1,784件(前年度比167件増))しました。
- ②平成27年度末に外科と泌尿器科を対象に開始した「入院前おくすり確認外来」について、平成28年度は、新たに消化器内科及び整形外科においても運用を開始しました。薬剤師が、入院前に患者の常用薬のチェックを行うことで、入院後の服用薬の安全確認をより高めることが可能となりました。
- ③感染管理チームによる院内の巡回を継続し、院内の感染状況の把握を行うとともに、伝播防止のために必要な対策を行う等、院内の感染防止に努めました。また、連携医療機関とのカンファレンスや病院間での評価を実施し、意見交換等を通して課題の抽出及び改善に取り組みました。(写真1)
- ④院内での必要な情報や最新情報等を記載した「ニュースレター」を定期的に発行し、職員への情報提供を行うとともに、院内研修会を積極的に開催し、職員の知識向上に努めました。(写真2)

(3) 法令及び行動規範の遵守(コンプライアンス)の徹底(P10の内容を再掲)

- ①コンプライアンス推進本部会議を開催するとともに、各所属においてコンプライアンス研修を実施し、全職員がコンプライアンスの重要性について認識・実践するための対応を継続しました。また、情報セキュリティについても、内部監査や集合研修を実施するなど、情報セキュリティの強化を図りました。
- ②平成28年度より、法人本部による病院への監査を実施する等、自主監査体制を強化しました。

グラフ1 クリニカルパス件数(件)及び適用率(%)

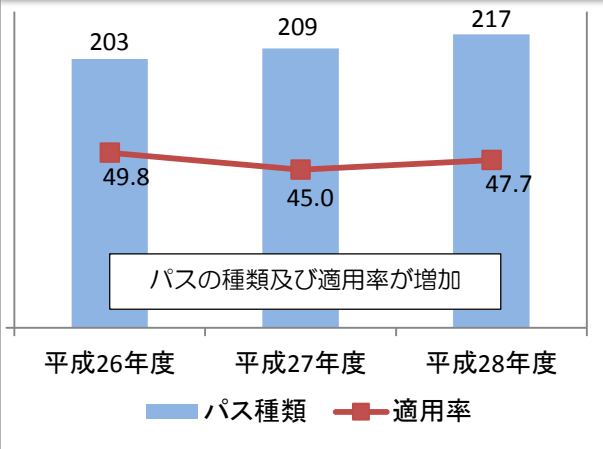


図1 卒後臨床研修評価



平成28年6月30日に訪問審査を受審し、2年間(平成28年8月1日～平成30年7月31日)の施設認定を受けました。今後も、臨床研修病院として、積極的に人材育成に取り組んでいきます。

写真1 感染症防止対策に関する連携医療機関先での相互評価の様子



連携先の医療機関に赴き、説明を受けながら定められた評価項目について、確認を行いました。



写真2 院内研修会の様子

医療安全研修



全体研修だけでなく、必要に応じて、部署ごとや職種ごとの研修も実施しました。

感染管理研修



◆用語解説◆ (※クリニカルパスはP11参照)

※1 DPC (Diagnosis Procedure Combination ・ 診断群分類別包括評価)

従来の診療行為ごとに料金を計算する「出来高払い」診療報酬請求方式とは異なり、入院患者の医療資源を最も投入した病気とその病状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分(投薬, 注射, 処置, 入院料等)と出来高評価部分(手術, 麻酔, リハビリ, 指導料等)を組み合わせる請求方式のこと。

※2 卒後臨床研修評価

NPO法人卒後臨床研修評価機構が行う病院の医師臨床研修制度に対する評価事業。臨床研修病院の研修プログラムについて、訪問調査を通して、「研修目標が達成可能なプログラムになっているか」など123項目にわたり教育的評価を行い、その結果を病院長はじめプログラム責任者、指導医、指導者、研修医、その他職員に直接的にフィードバック(形成的評価)を行うもの。

神戸市立医療センター西市民病院

4. 市民及び患者とともに築くやさしい病院

(1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

- ①患者満足度調査の実施や意見箱の設置により患者のニーズの把握に努め、必要な改善を行いました（グラフ1）。また、医療通訳制度の利用を継続する等、誰もが利用しやすい病院づくりに取り組みました。
- ②入院患者やその家族等を対象とした院内コンサートや夏祭りを引き続き開催し、多くの方に参加いただきました。
- ③外来総合案内に、看護師（外来患者の診察に関するアドバイス等）、フロアマネジャー及びボランティア（案内等）を配置し、来院者からの問い合わせにきめ細かく対応し、**外来案内機能の充実**を継続しました。（写真1）

(2) 市民及び患者へ開かれた病院

- ①患者向け広報誌「虹のはし」を引き続き発行し、西市民病院の診療情報や医療スタッフの役割、新しい取り組み等について情報提供を行いました（図1）。また、各種教室においては、患者や市民に分かりやすい情報の提供に努め、糖尿病教室及び市民公開講座の参加者数が増加しました。
- ②ホームページについても、引き続き新しい情報の追加や更新を行うとともに、**リニューアルに向けた準備**を行いました。

5. 地域医療連携の推進

(1) 地域医療機関との更なる連携

- ①地域医療機関等との役割を明確にするため、引き続き、院内での相談窓口の継続やポスター掲示、啓発印刷物の配布等により、かかりつけ医を持つことについて患者や地域住民への啓発を行いました。また、各診療科の医師等による地域医療機関への訪問を積極的に行うとともに、オープンカンファレンスや地域連携のつどいを開催し、地域医療機関との連携強化に取り組みました（写真2）。平成28年度は、より一層の患者の紹介・逆紹介（※1）の推進に取り組み、**紹介率及び逆紹介率がともに上昇し、地域医療支援病院（※2）としての役割**を果たしました。（グラフ2）

(2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

- ①訪問看護師やケアマネジャー等との意見交換会を開催し、医療と介護の連携を深めるとともに、訪問看護師等の知識習得の機会として、専門認定看護師や各医療チームによる研修会を開催し、地域の関係機関との顔の見える連携に引き続き取り組みました。（写真3）
- ②患者の円滑な退院のため、退院カンファレンスを積極的に開催するとともに、在宅で療養されている方の後方支援として、かかりつけ医からの依頼による緊急入院患者の受入れを行いました。

グラフ1 患者満足度調査結果(%)

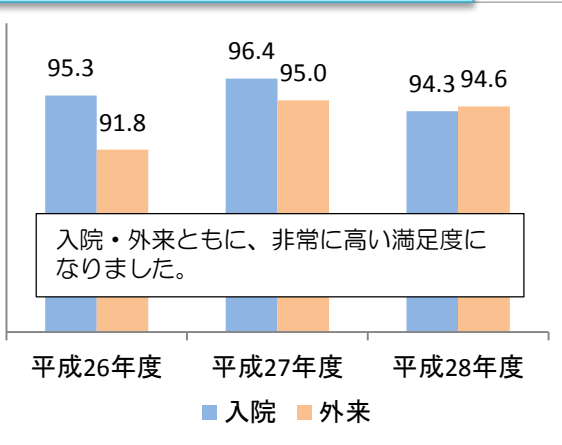


写真1 ボランティア活動(イメージ)



再来受付機の操作案内の様子

定期的にボランティアとの意見交換会を実施し、患者ニーズの把握や必要に応じて改善を行いました。

図1 院内広報誌「虹のはし」



平成27年度からは、発行回数を年2回から3回に増やし、積極的な広報に努めました。

グラフ2 紹介率・逆紹介率(%)

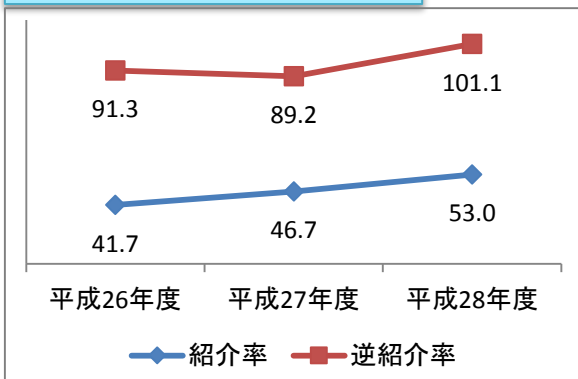


写真2 オープンカンファレンス



小児科オープンカンファレンス(食物アレルギーについて)の様子

講演だけでなく、出席者全員による参加型のカンファレンスも開催しました。

写真3 関係機関との連携



院内外多職種交流会の様子

初めての取り組みとして、院内外多職種交流会を開催し、連携を強化するための意見交換等を行いました。(参加者74名、うち院外41名)

◆用語解説◆

※1 逆紹介

当該医療機関から他医療機関に患者を紹介すること。また、逆紹介率とは、その割合を示す指標。

※2 地域医療支援病院

医療機関相互の適切な機能分担及びかかりつけ医の支援を通じて、地域医療の確保を図る医療機関として都道府県知事から承認を受けた病院。西市民病院は平成25年11月に承認を受けた(中央市民病院は平成21年12月に承認)。

優秀な職員の確保と人材育成

1. 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 優れた専門職の確保

- ①全ての職種において、病院運営に必要な優れた人材の確保に取り組むとともに、豊富な知識や経験を持つ病院勤務経験者採用を継続して実施しました。（グラフ1）
- ②看護職員確保のため、合同就職説明会の参加や学校訪問等を積極的に実施するとともに、若手看護師との交流を中心とした内定者懇談会や国家試験対策講座を実施し、内定者の入職前の不安の軽減にも努めました。（写真1）
- ③両病院において、レジデント制度※1を引き続き活用し、優れた医療技術者の養成と確保に努めました。
- ④新専門医制度に向けて、日本専門医機構からの情報収集及び対応策の検討を行いました。

(2) 職員の能力向上等への取り組み

- ①すべての職員が必要な技術や知識を習得できるよう各階層や職種における研修の実施や資格取得支援制度等の各種制度の充実を継続しました。（表1）
- ②中央市民病院では、院内全体の研修支援体制強化のため、人材育成センターを設置するとともに、平成28年8月に増築した研修棟を活用し、様々な研修を立案・実施しました。（写真2）

(3) 人材育成等における地域貢献

- ①将来、神戸市民病院機構を含め神戸市内の医療施設で働く優秀な人材を確保し、市内全体の医療の質の向上を図るため、医師、看護師、薬剤師等医療系学生を引き続き積極的に受入れ、人材の育成に貢献しました。

2. 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

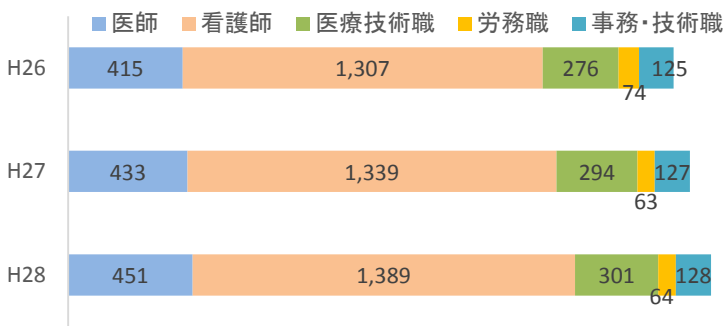
(1) 努力が評価され報われる人事給与制度等の導入

- ①平成28年度より、医師の人事評価制度を試行的に実施するとともに、医師以外の職種については本格実施とし、評価結果の給与等への反映方法を決定する等、職員の能力及び実績に基づく人事管理体制を整備しました。

(2) 働きやすい環境の整備

- ①職員が育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、中央市民病院では、平成28年9月に、病児保育室※2の運用を開始するとともに、院内保育所の受け入れ定員を拡充することを決定しました。また、西市民病院においては、近隣の病児保育施設や認可外保育所の入所枠を確保するとともに、院内での保育所開設に向けた検討を進め、運営事業者の決定を行いました。（写真3）
- ②優秀職員表彰を引き続き実施し、職場の活性化・勤労意欲の向上を図りました。また、両病院において各部門や各部署における業務活動の発表会についても引き続き実施するなど、業務改善に取り組みました。

グラフ1 職員数の推移(人)



地方独立行政法人の柔軟性・機動性を生かし、医療需要等に応じて年度途中採用も行うことにより、柔軟な職員配置を行うことができました。

その結果、医師・看護師等について適正な職員数を確保し、より良い医療を提供できる体制を整えることができました。

※各年度3月末時点での職員数
※正規職員のほか、任期付医師、専攻医、研修医を含む

写真1 内定者懇談会



表1 主な制度の平成28年度利用者数

制 度	利用者数
資格取得支援制度	24名
短期国内外派遣制度	3名
看護職員長期留学制度	3名
看護職員大学院留学制度	3名
看護職員海外派遣制度	1名

写真2 研修棟での研修風景



平成28年8月に増築した研修棟において、様々な研修を実施しました。

写真3 病児保育室・院内保育所



運用開始後、受入れ人数を3名から5名に拡大し、平成28年度末までに93名が利用しました。

職員から名称募集を行い、投票のうえ、「ひまわり保育園」と名称を決定しました。
(平成29年4月1日より運用開始)

◆用語解説◆

※1 レジデント制度

実務経験に根ざした講義と臨床実務実習を通して、高度急性期医療・地域連携に対応した臨床能力を身に付け、チーム医療を実践できる医療技術職員を育成するため作られた制度。2年間の研修期間を設けている。平成28年度は、中央市民病院では薬剤師、リハビリ及び管理栄養士、西市民病院では薬剤師を受け入れた。

※2 病児保育室

入院するほどではないが、保育園で集団生活をするには困難な疾患中あるいは疾患回復期の乳幼児及び児童を対象として預ることを目的として設置された保育室。

経営状況について

1. 安定的な経営基盤の維持

(1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持

①両病院において、各診療科の特性の把握や分析等をテーマに院長ヒアリングを年2回実施し、各診療科や各部門に対して、**経営改善の意識の向上**を図りました。また、業務経営改善会議を開催し、決算状況や各部門の取り組みについて報告や検討を行い、安定的な経営を維持するための対策を図りました。（決算概要についてはP26参照）

(2) 収入の確保

①平成28年度の診療報酬改定を受け、情報収集に努めるとともに、関係部署と調整を行い、**新規加算等の取得や安定した収入の確保**に努めました。また、保険請求に関する委員会において、請求漏れや査定※1)対策について検討を行い、適正な診療報酬請求に取り組みました。

(3) 費用の合理化及び業務の効率化

- ①医薬品の**薬価交渉**を行うにあたり、3病院の薬剤部長会で交渉方針を決定し、薬剤部長も同席のうえ交渉を行う等、さらなる効果額を確保できるよう取り組みました。
- ②診療材料について、法人本部及び両病院において、引き続き、ベンチマークシステム※2)や他病院への聞き取り等の分析を踏まえた**価格交渉**を実施するとともに、適切な在庫管理や在庫削減に取り組みました。また、平成28年度は、兵庫県病院局経営課と勉強会を開始し、機器調達、診療材料、医薬品契約交渉等について、幅広い内容で意見交換会を実施しました。（写真1）
- ③後発医薬品※3)については、医薬品の安全性を十分に評価したうえで導入を促進し、両病院において、後発医薬品の数量割合が上昇しました。

2. 質の高い経営ができる病院づくり

(1) 質の高い経営体制の維持

- ①常任理事会及び理事会を定期的に開催し、経営状況や経営改善策の報告を行い、活発な議論を行うとともに、迅速な意思決定を図り、円滑な病院運営に取り組みました。また、年度計画の達成状況の確認及び課題の把握のために、四半期ごとに進捗確認を行い、情報共有を図りました。
- ②経営改善の取り組みや近隣医療施設との連携等の方向性を議論することを目的とした、**幹部向けの役員研修会を開催**し、より質の高い経営ができる体制づくりに努めました。（写真2）

(2) 計画的な投資の実施

①高額医療機器の購入や更新については、投資効果等を検証した上で、計画的に導入を進めるとともに、適切な予算執行ができているか確認を行いました。また、平成28年度は、両病院において、**増築及び既存施設の改修**を行い、**医療機能や職員の執務環境を充実**しました。（P28 写真1）

(3) 環境にやさしい病院づくり

①両病院において、引き続きエネルギーや廃棄物の削減に向けた取り組みを継続しました。

グラフ 経常収益・経常費用

◆中央市民病院

単位：億円

◆西市民病院

単位：億円

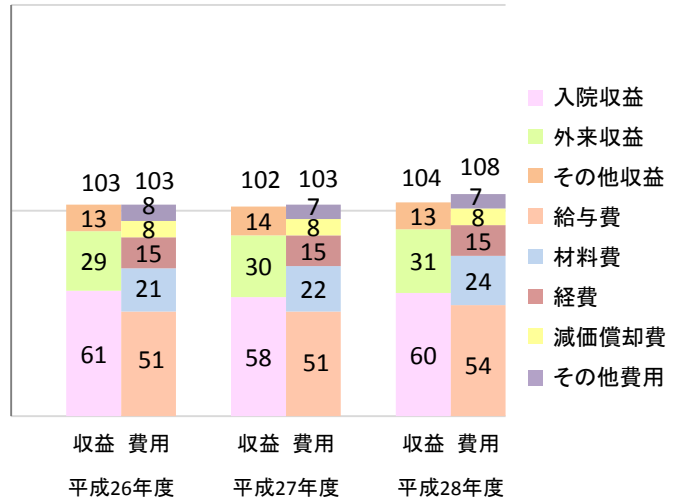
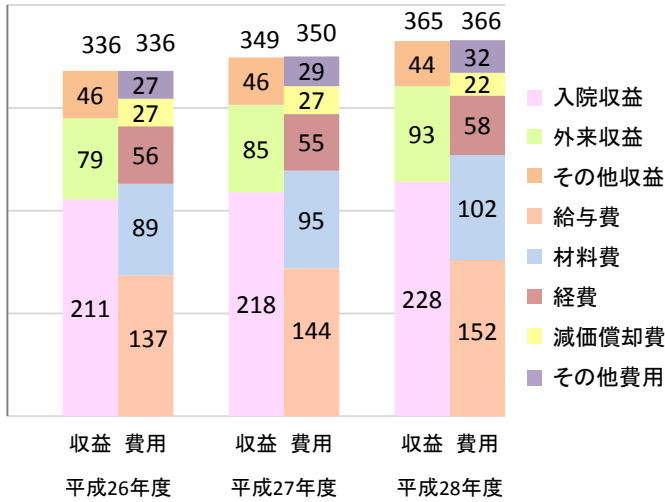


写真1 兵庫県との勉強会



それぞれが抱えている課題や取り組み状況等について、活発な意見交換ができました。

写真2 幹部研修会の様子



「ピッツバーグ大学医療センターと神戸医療産業都市」

「神戸市民病院機構等の戦略的病院経営 ー地域とともに歩むー」



◆用語解説◆

※1 査定

医療機関が作成した診療報酬明細書（患者が受けた医療について、国民健康保険や健康保険組合等に請求するために医療機関が診療報酬点数表に基づいて作成する請求書。レセプトと呼ばれる。）を、審査機関が規則などの定めによって審査し、請求内容が適切でないことを判断したものを減点することを「レセプト査定」という。

※2 ベンチマークシステム

他の医療機関の購入価格をインターネット上で比較・検討することができ、自施設の購入価格の位置が明確となり、購入価格の引き下げ交渉に有力な情報として活用できるシステム。

※3 後発医薬品

成分そのものや、その製造方法を対象とする特許権が消滅した先発医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許の内容を利用して製造した、同じ主成分を含んだ医薬品。ジェネリックともいう。

経営状況について

◆◆平成28年度決算概要◆◆

◆法人全体

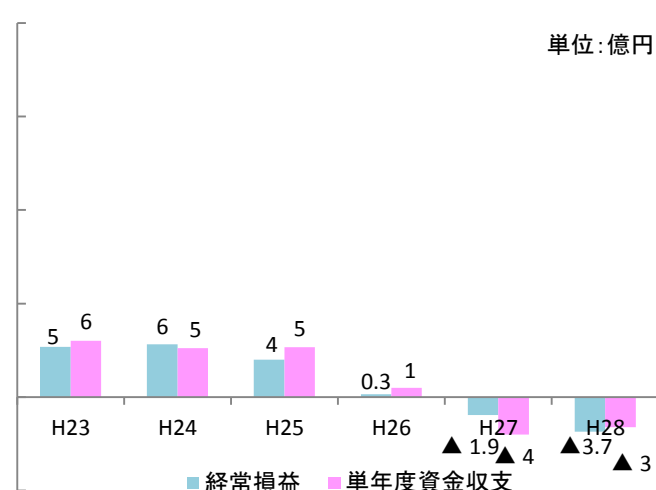
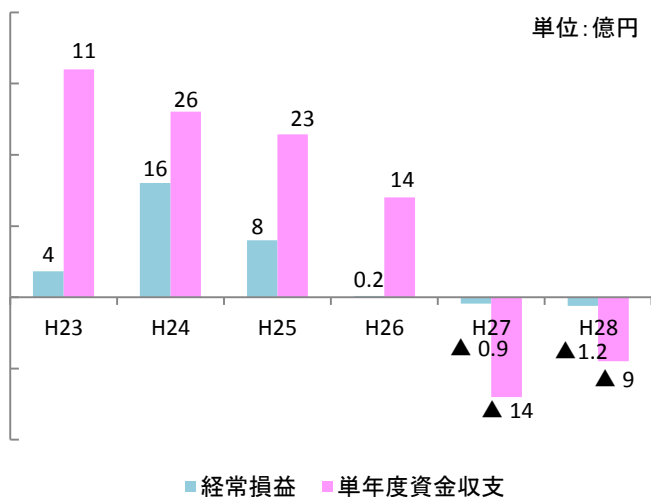
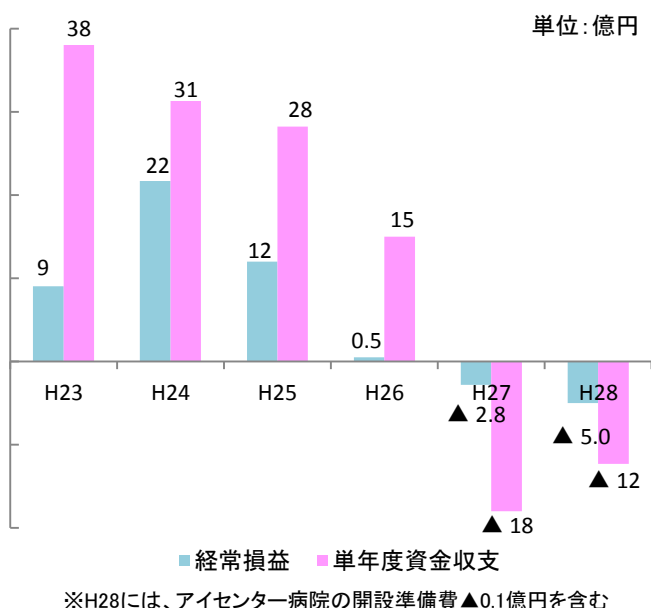
- ①両病院において、政策的医療にかかる市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行うことを目標に取り組みました。
- ②医療を取り巻く環境が厳しさを増し、全国的に赤字病院が増える中、平成28年度は、職員一丸となって経営改善策を実施することにより、**収益の改善や経費の縮減**等に努めたものの、**消費税負担**による影響及び**給与と費の増加、高度医療の提供等による費用の増加**に伴い、経常損益及び当期純損益については、**約5億円の赤字**となりました。
- ③単年度資金収支は、現中央市民病院整備にかかる借入金返済が大きく、**12億円の赤字**となりました。

◆中央市民病院

- ①精神科身体合併症病棟の開設、地域医療連携のさらなる推進に努めたこと等によって、平均在院日数が短縮されるとともに、高度医療を行うことによる診療単価の上昇等により収益を確保しました。
- ②医療の質向上や医療安全の確保等に十分配慮した上で、引き続き効率的かつ効果的な体制構築に取り組むとともに、経営改善策の実施により経費の縮減等に努めたものの、高度医療の提供等による費用の増加に伴い、経常損益としては1.2億円、当期純損益としては1.3億円の赤字となりました。

◆西市民病院

- ①在宅医療への支援を含め、地域医療機関との連携強化を図るとともに、C型肝炎治療薬の使用量増に伴う投薬料の増、外来化学療法件数の増に伴う注射料の増等により収益を確保しました。
- ②医療サービスの質の維持・向上を図りながら、診療材料費や医薬品等について費用の節減に取り組んだものの、医師の異動等に伴い患者数が目標値を下回ったことから、経常損益としては3.7億円、当期純損益としては3.1億円の赤字となりました。

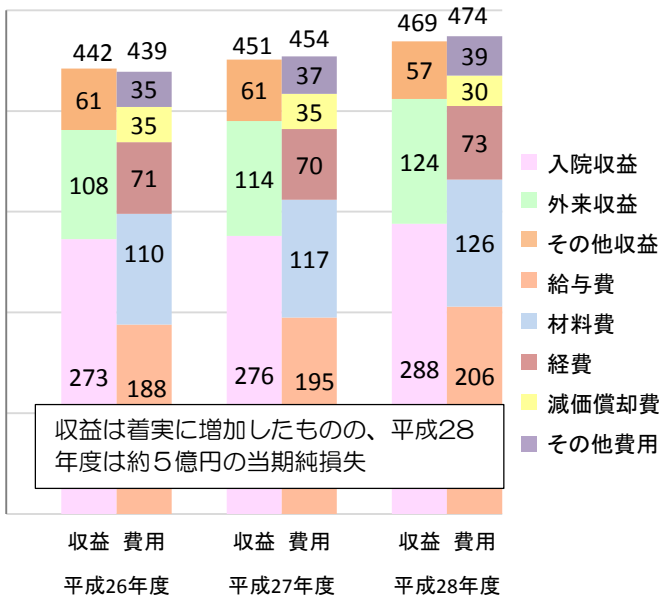


◆◆財務諸表の概要◆◆

【損益計算書】・・・各事業年度における法人の経営成績を表示
 【貸借対照表】・・・事業年度末（3月31日）現在における法人の財政状態を表示
 【キャッシュフロー計算書】・・・各事業年度の現金及び預金の増減を活動区分別に表示
 【行政サービス実施コスト計算書】・・・納税者が実質的に負担しているコストを表示

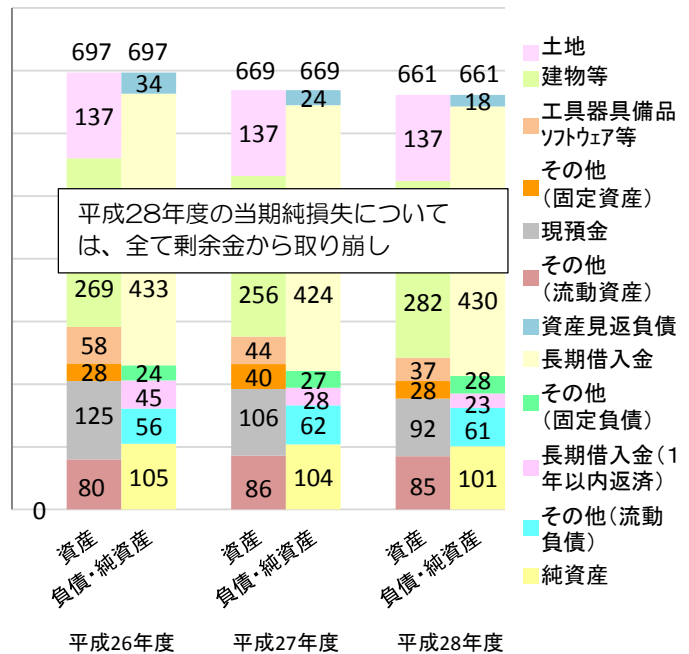
損益計算書

単位:億円

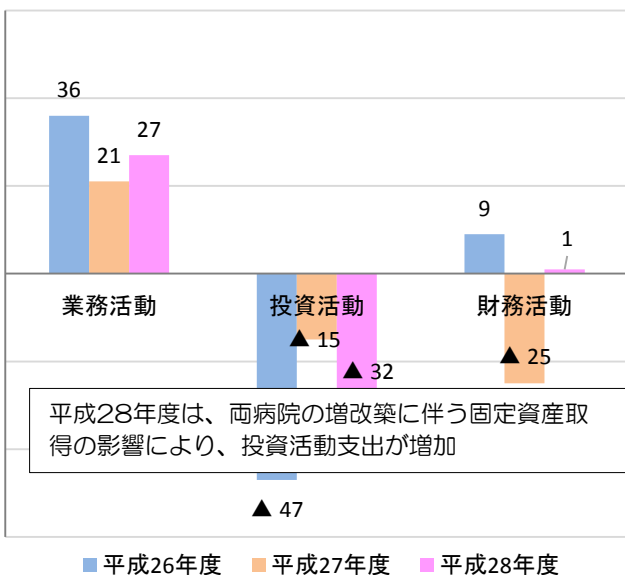


貸借対照表

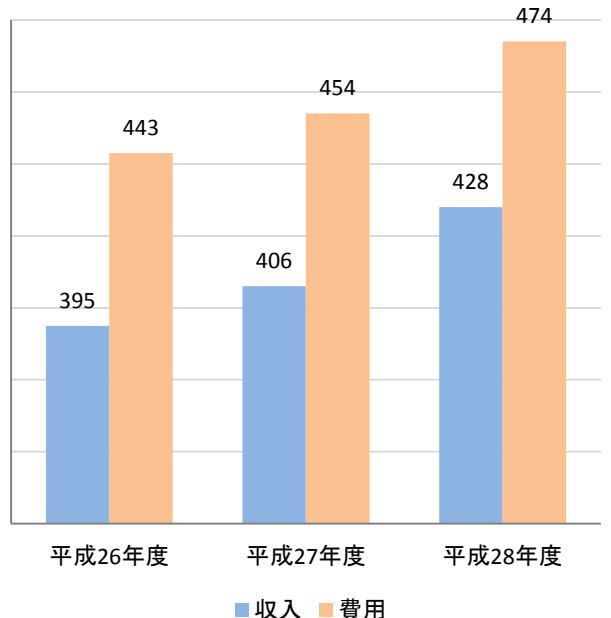
単位:億円



キャッシュフロー計算書



行政サービス実施コスト計算書



・平成28年度末の現金及び預金残高（定期預金含む）92億円

PFI事業・市関連病院連携・神戸医療産業都市

1. 中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進

- ①PFI事業者との連絡会を引き続き開催し、業務実績の確認を行うとともに、患者サービスの向上や経営改善を図りました。また、平成28年度はこれまでの実施状況を踏まえ、PFI事業導入後5年間の検証を開始しました。

2. 市関連病院との連携

- ①市関連病院間において、医療機能に応じた患者の紹介・逆紹介を行うとともに、各部門での連携会議や人事交流を行い、連携の促進を図りました。
- ②中央市民病院及び西市民病院において、患者の円滑な転院・転送に関する新たな運用を周知徹底し、両病院間における連携を一層推進しました。また、医療情報システム連携についても検討を行い、電子カルテを相互に閲覧できる環境を整備しました。

3. 神戸医療産業都市における役割

- ①中央市民病院において、近隣の医療機関と連携会議を引き続き開催する等、リーダーシップを発揮したうえで連携強化を図りました。

写真1 両病院の増築について

両病院において、外来診療部門の混雑緩和による患者サービスや、病院職員の執務環境の向上を目的として、増築を行いました。

〈中央市民病院 北館〉

混雑緩和等のための外来診察室の拡充、救命救急センターの拡充他

地階 倉庫
1階 精神科身体合併症病棟 他
2階 外来診察室他
3階 医局他
4階 手術室他

鉄骨造 一部RC造
地上4階 地下1階
延べ面積 4,045.25㎡



〈中央市民病院 研修棟〉

会議室、人材育成センターなどの研修施設の拡充他

1階 ピロティ駐車場他
2階 人材育成センター
(トレーニングラボ・
研修ホール) 他
3階 病児保育室他

鉄骨造 地上3階建て
延べ面積 3,079.45㎡



〈西市民病院 東館〉

混雑緩和等のための外来診察室の拡充他

1階 更衣室・事務室他
2階 外来診察室他
3階 更衣室他
4階 医局事務室他
5階 更衣室・事務室他
6階 倉庫他

鉄骨造 地上6階建て
延べ面積981.47㎡



西神戸医療センターの市民病院機構への移管について

◆◆西神戸医療センターの市民病院機構への移管について◆◆

西神戸医療センターについては、移管に向けて各種手続きを進めるとともに、課題の整理等、円滑に移管が行えるよう準備を進め、平成29年4月に市民病院機構へ移管されました。

今後は、市民病院機構として、引き続き安定的な経営基盤を維持するとともに、病院間の連携をより強化し、だれもが安心して医療を受けられる病院を目指し、市民の生命と健康を守るという市民病院としての使命を果たしていきます。

<病院概要>

所在地：神戸市西区糀台5丁目7番地1

病床数：475床 [一般病床425床(うちICU、CCU10床) 結核病床50床]

標榜科目：内科、神経内科、内分泌・糖尿内科、腎臓内科、血液内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、乳腺科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

開院：平成6年8月1日

基本理念：“神戸西地域に根づいた安心・安全な医療をめざします”

主な機能等：国指定地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、臨床研修指定病院、病院機能評価認定施設



<移管までの主な手続き等>

平成27年6月 西神戸医療センターの市民病院機構への移管を決定

9月 総務省への事前協議を開始

10月 評価委員会（中期目標の変更について(1回目)）

11月 評価委員会（中期目標の変更(2回目)、中期計画の変更(1回目)）

12月 市民意見提出

平成28年3月 定款変更・中期目標変更について市会にて議決

8月 評価委員会（中期計画の変更(2回目)）

12月 評価委員会（中期計画の変更(3回目)）

平成29年3月 中期計画変更について市会にて議決

平成29年度 年度計画の策定

神戸市地域医療振興財団と事業譲渡契約を締結

総務省認可

4月 市民病院機構へ移管



評価委員会の様子

<移管に向けた主な取り組み>

- ・常任理事会及び理事会にて、進捗状況の報告
- ・平成29年度予算の理事長ヒアリングを実施
- ・各種規定等の改正、統一
- ・3病院による薬価交渉、消耗品の一括入札による費用削減
- ・事務職員等に向けた入札・契約研修等の実施
- ・がん対策強化のため、PET導入について検討（平成29年度導入予定）



入札・契約研修会の様子

先端医療センター病院の統合・神戸アイセンター病院の開設

◆◆先端医療センター病院が中央市民病院へ統合します◆◆

先端医療センター病院（60床）が平成29年11月（予定）に中央市民病院へ統合することが決定しました。この決定に伴い、院内において先端統合検討委員会や関係部会等を発足し、統合に向けた検討を開始しました。

<統合による効果>

●救急医療体制の強化

増床する60床を含めた768床の効率的な病床運営を行い、救急バックベッドを確保し、これまで以上に救急患者の受入れ体制の充実を図ります。

●神戸医療産業都市における臨床研究実施体制の拡充

先端医療センター病院で実施中の臨床研究・治験は、原則として中央市民病院で継承し、より安全で安定的な臨床研究・治験実施体制を確立し、最先端の研究開発の成果を提供します。

●財政効果

市として国からの交付税措置が受けられるとともに、一般財源支出の軽減が期待できます。



統合後の新名称は、「井村記念 南館」

◆◆神戸市立神戸アイセンター病院が開院します◆◆

神戸市民病院機構の4番目の病院として、平成29年12月（予定）に神戸アイセンター病院を開設することが決定しました。神戸アイセンター病院は、眼の疾患に対して、基礎研究から臨床応用、治療、リハビリまでをトータルで対応する全国初の施設となります。この決定に伴い、新たに設置したアイセンター病院整備室を中心に開設に向け準備を進めました。

<主な役割>

- ・中央市民病院と先端医療センター病院の眼科機能の集約・拡充
- ・眼疾患に関し、市民病院として神戸市域において標準医療から最先端の高度眼科医療まで地域医療を高い水準で担う基幹病院
- ・眼疾患に係る臨床開発（治験・臨床研究）推進の臨床基盤

<施設概要>

所在地 神戸市中央区港島南町2丁目1番地の8
 診療科目 眼科
 病床数 30床
 施設 敷地面積約2,000m² 延床面積約8,800m²
 建物構造 鉄骨造地上7階建



◆◆これまでの主な手続き及び今後の取り組み◆◆

統合及び開設に向け、定款及び中期目標の変更に対して市会の議決をいただきました。今後、評価委員会の意見を聴取したうえで、中期計画変更に伴う手続きを進めるとともに、課題の整理等、統合及び開設に向け、着実に準備を進めていきます。

